やさしさ　勇気　喜び　そして　夢

タカラッキー

宝木小学校だより　第１８号
令和６年１２月２３日発行

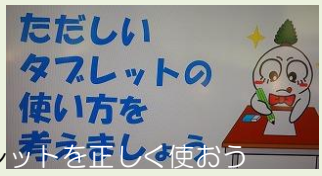
http:/www.ueis.ed.jp/school/takaragi/　（発行者　室田　和宏）

“笑い 20%増量！” 達成度は？

2024 年も残すところあとわずかとなりました。ポテトチップス大作戦“笑い 20%増量”の達成度は果たして・・・。昼休み校庭を歩きながら，ある子と雑談していると『“笑い 20%増量”って先生たちの達成具合はどうですか？』「うーん，どうだろう，ポテトチップス大作戦を心がけているけど，みんなから見たらどう映っているんだろうね」・・・『わたしたちの中では，ちょっと誤解している人もいると思うんですよね。ふざけることが“笑い”っていうか・・・。』「それは困るね，先生たちが目指しているのは少なくともそういうことではないからね」12 月に，こんな会話ができたことをうれしく感じました。“相手を思いやり，人の嫌がることはしない。感じ方，考え方はみなちがう。”と折に触れて話してきた 2024 年，私たちの思いは，子供たちの心にどれだけ届いたでしょうか。

先日，スマホ依存の講演を聞く機会がありました。スティーブ・ジョブスやビル・ゲイツが，我が子には電子機器を持たせなかったという話は有名ですが，スマホ子守りやゲームやりすぎの，脳への影響は私たちの予想をはるかに超えているようです。スマホは本当に必要か（キッズケータイ等ではだめか？）ゲームをやりすぎていないか（ゲームが得意な人しか依存症にはならない），是非家族で考える冬休みに。

朝の放送　タブレットを正しく使おう



プログラミング学習

スマホケータイ宮っ子集会

周年だるま！

４年生　親子の集い「己書」

タグラグビー

縦割り班でお弁当の日

きれいに並んでさすが！

火災に備え避難訓練

働き方改革とカリキュラムマネジメント＜シリーズ②授業時数適正化＞

令和５年６月に閣議決定された「骨太の方針２０２３」を受け，中央教育審議会（文部科学省）から緊急的に取り組むべき施策が提言されました。その中で，2024 年度からの３年間を集中改革期間とすることが示されました。大きな課題として挙げられたことの一つに，「各学校における授業時数や学校行事の在り方の見直し」があります。今回は「授業時数の適正化」について触れたいと思います。標準授業時数を大幅に上回っている例として“1,086 時間（5 年生）以上計上している学校が 20%以上ある”と例示されました。本校でもこれまで，５年生の計画時数は 1,090 時間程度で計画されてきました。さらに予備も 17 時間確保されています。1，2 年生では予備の時数がさらに多く，30 時間を超えています。子供たちの負担過重にもつながることなので，次年度に向け，指導計画を見直し，週のプログラムや時間割の改善等を検討していく必要があると考えています。児童や保護者，地域の皆様にご協力いただいた，学校マネジメントアンケートや各種調査等のデータも参考にしながら，しっかり検討し，より良い計画づくり（カリキュラムマネジメント）を進めます。主体的，対話的で深い学びが展開されるようなカリキュラム編成になるよう，そしてより一層，子供たちにしっかり向き合う“笑い 20%増量”の学校づくりを目指して。